様式3

学校番号 22

# 令和4年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立八幡中央高等学校　全日制課程

## 自己評価

### 学校運営計画（4月）

| 学校運営方針 | 校訓および教育目標に則った教育実践により、中央生としての自覚と高い志を持ち社会に貢献できる生徒を育成し、地域や広く社会に信頼される学校文化を築いていく。 | | 評価（総合） |
|---|---|---|---|
| 昨年度の成果と課題 | 重点目標 | 具体的目標 | |
| 本校は、創立106年目を迎えるいわゆる伝統校である。学校周辺の地域には本校の卒業生も多く、同窓会からも物心両面にわたり温かい支援を受けており、その期待も大きい。その一方で学校周辺地区では、中学校の生徒数の減少が続いており、本校でも生徒数の確保が難しくなっている。そのような状況において、本校の果たすべき使命は、対外的には保護者や地域に対して確固たる進学実績を示すことであり、校内的には急激に変化する社会に対して柔軟に対応し、活躍できる人材を育成することである。<br>そこで、今年度も昨年度に引きつづき、不易流行を大切にしながらも生徒の実態に照らした教育活動の見直しを推進し、生徒に能動的に学ぶ姿勢を身に付けさせるとともに、一人一人の能力を最大限に引き出すための個別最適化された学びを実現することにより、主体的に進路を選択する力、その実現に向けて粘り強く取り組む力、さらには社会の変化に柔軟に対応できる創造性豊かな生徒を育成する。<br>また、昨年度は新しく特色化選抜を導入したこともあり、入試倍率が上昇し定員を満たすことができたが、地域の現状を考えるとき、引き続き生徒募集を本校の重要なミッションとして位置付ける。 | ①学習指導（基礎学力の定着、学びに向かう力の育成） | 鍛ほめ福岡メソッド及び個別最適化された授業の提供により、生徒の自ら学ぶ力を育成する。 | |
| | ②学習指導力の向上（アクティブラーニングに向けた教師の自己研鑽） | 生徒の「主体的・対話的で深い学び」を企図した授業改善と適切な評価を行うことにより生徒の創造的思考および学ぶ意欲を喚起する。 | |
| | ③進路指導（高い志を持った生徒の育成） | 全体計画に沿ってキャリア教育を推進し、生徒により高い目標設定を促し、生徒の主体的な進路選択・決定およびその実現を支援する。 | |
| | ④生徒指導（あるべき姿と誇りを大切にする生徒の育成） | 厳しさの中にも温かみのある生徒指導及び生徒主体の学校行事、部活動等を通して、自己決定能力、自己存在感、共感的人間関係を育成する。 | |
| | ⑤人権・同和教育の推進（自他の人格を尊重する生徒の育成） | 多様性を認め、自他を尊重し、いじめや差別のない教育環境をつくる取組を推進する。 | |
| | ⑥特色ある教育の推進（他校と差別化された教育の推進） | 芸術コース・特進クラスの目的・目標に即した取組を推進し、刺激と調和を生み出す。 | |
| | ⑦広報活動（教育活動の積極的発信） | 教育活動全体を対象とした戦略的広報活動を推進し、生徒募集につなげる。 | |

| 価項 | | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価（3月） | | | 次年度の主な課題 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学務部 | 教務課 | 充実した正課授業の実現 | 「わかる授業」「できる授業」等、生徒が積極的に参加できる充実した授業の実現にむけて改善を図る。また、昨年度から始めた教科横断型授業をさらに深め、本校生徒の実態に即した授業実践例を研修部と協力をしながら蓄積していく。また、PDCAの一環として、授業評価アンケートを行い、授業の工夫・改善に役立てる。 | | | | |
| | | 基本的生活習慣の確立・家庭学習の定着 | 保護者の協力を得ながら、関係各所とも連携を図り、安易な欠席・遅刻を減少(出席率99%以上目標)させる。また、学年・教科と連携をとりながら、1日2時間以上の家庭学習時間の確保に努めさせる。 | | | | |
| | | 情報課との連携・成績処理等の管理徹底 | 観点別（3観点）による評価が円滑に進むようシステム及び教務規定の点検・見直し・整備等を行う。また、情報課と連携して校務支援システムの運用を行う。 | | | | |
| | 広報・庶務課 | 認知度を高める広報活動・充実した教育活動の推進 | 同窓会やPTA等、関係各所との連携を深めることで教育活動の活性化を図る。また、本校の魅力を発信する機会を創出し、中学生や地域等へ戦略的に情報発信を行う。 | | | | |
| 生徒育成部 | 生徒指導課 | 自己決定能力の育成 | 挨拶の励行、時間の厳守、校則の遵守を3本柱とし、礼節の指導を徹底し、規範意識の高揚に努める。また、基本的生活習慣を確立させるために、積極的生徒指導を推進する。 | | | | |
| | | 自己存在感の醸成 | 生徒会執行部をはじめ、各専門委員会の活性化を図り、生徒一人ひとりが達成感、充実感を体感できる生徒会活動および部活動を推進する。 | | | | |
| | | 共感的人間関係の確立 | 生徒主体の学校行事を通じて、自主的活動を推進し、母校愛や帰属意識を育てる。 | | | | |
| | 健康教育課 | 安心安全な学校環境を作る | 新型コロナウイルス感染症の感染予防とインクルーシブ教育の推進を行う。また安全で安心して生徒たちが登校できるよう様々な面に関して整備を行う。 | | | | |
| キャリア教育部 | 進路指導課 | 3年間を見通したキャリア教育の推進 | 「朝学習・スタディサプリ」「総合的な探究の時間」「模擬試験の活用」の3つを柱として、3年間で一貫性のある指導計画を作成し、実行する。 | | | | |
| | | 第一進路希望の達成と学校満足度の向上 | 本校の特色である「芸術コース」と「特進クラス」において地域や大学との連携を推進するとともに、「総合的な探究の時間」を通して、進路目標達成への意欲を育てる。また、模擬試験を生かしたPDCAサイクルでの指導を推進する。 | | | | |
| | | 各種検定試験の資格取得率の向上 | 普通科は英語検定や数学検定、芸術コースは色彩検定や毛筆・硬筆検定などの資格の受検を促進し、その成果を進路目標の達成に活用する。 | | | | |
| | 情報課 | 校内研修による教員の情報活用能力向上と各種システムの円熟化 | 校内研修を実施し、情報活用能力（ソフトウェア・ハードウェア）の向上を図る。学校全体を巻き込むことで、生徒にとってより効果的なサービス活用を目指すとともにシステム運用に係る人的負荷の分配を図り、より良いシステム構築に取り組む足掛かりとする。 | | | | |
| 研修部 | 研修・図書課 | 教科科目横断型授業と「主体的・対話的で深い学び」の継続推進 | 年2回の研究授業週間を、各教科が年1回以上、教科科目横断型授業に挑戦する機会として設定し、新しい視点を取り入れた「主体的で深い学び」の場を築く試みを支援する。 | | | | |
| | | 読書の推進と芸術鑑賞会の発展 | 年間を通して「先生からの推し本」紹介や読書の日などを企画し、読書に対する生徒の興味関心を喚起する。また従来の演劇、音楽、古典芸能の枠組みにとらわれず生徒の感性を育む良質な鑑賞会を招聘する。 | | | | |
| | 人権教育課 | 生徒の自尊感情の涵養と安心・安全な学校生活環境作りの促進 | 「鍛ほめメソッド」を基に、授業・学校行事等での実践を推進する。また、積極的な挨拶・声かけを通して生徒にとって安心・安全な学校生活環境作りを促進する。 | | | | |
| 1学年 | | 基本的生活習慣の確立および基礎学力の定着・向上 | 挨拶や礼儀作法、時間を守った行動に関する指導を丁寧に行う。また、国語・数学・英語を中心に中学校の復習を取り入れ、高校の学習内容の理解へと繋げる。 | | | | |
| 2学年 | | 素直にひたむきに物事に取り組む態度と、中堅学年としてのリーダーシップ・フォロワーシップの育成 | 出席にこだわり、挨拶、清掃を励行し、規律を遵守させる。また、学校行事やボランティア活動、部活動を通して、リーダーシップとフォロワーシップの精神を育成する。朝学習などの取り組みを通して学習習慣の定着と学力の向上を図り、企業訪問や課題研究を通して進路意識の向上させる。 | | | | |
| 3学年 | | 個々に応じた進路希望の実現と国公立大学15名以上合格の達成 | 習熟度別に応じた授業を展開し、放課後課外や長期休業中学習講座を実施する。個々の進路に応じて面接指導や小論文指導を丁寧に行い、国公立大学15名以上合格の達成する。 | | | | |
| 芸術コース | | 芸術の基礎的知識技能の習得と高い専門性の育成、及び地域貢献活動の推進 | 検定合格率85%、各種公募展上位入賞（九州大会以上20名）、芸術系国公立・難関私立大学合格者、9名以上を目標に取り組む。芸術的技能を生かした地域貢献活動を生徒主体で企画運営する。 | | | | |
| 特進クラス | | 地域貢献できる人材の育成と4年制大学進学の意識醸成、実績向上。 | 九州国際大学との連携事業を継続し、生徒の視野を広げ、進路について深く考える契機を与える。月水金のユメチカにおいては国数英を中心とした学力補充に注力する。 | | | | |
| 事務室 | | 教育環境の整備充実 | 学校教育目標を実現するため、積極的に必要となる施設、物品の改修・修繕・購入等を行う。 | | | | |
| | | | 学校教育目標を実現するため、予算のより効果的・効率的運用を図るとともに、新型コロナウイルス感染症に対して、柔軟かつ臨機応変な予算対応を行う。 | | | | |
| | | 事務室の機能強化 | 学校の課題等について共通理解を持ち、積極的に学校経営に参加する。 | | | | |

## 学校関係者評価

| 評価（総合） | 自己評価は |
|---|---|
| | A ： 適切である<br>B ： 概ね適切である<br>C ： やや適切である<br>D ： 不適切である |

| 項目ごとの評価 | 学校関係者評価委員会からの意見 |
|---|---|
| | |

## 自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・
・
・
・
・

| 評価項目以外のものに関する意見 |
|---|
| |